シ ラ バ ス 情 報

授業方法	(講義)・ 実験 ・ 実習
系　　列	自動車整備
科 目 名	シャシ整備
必修・選択	(必修科目) ・ 選択科目
対象学科	一級自動車整備科・二級自動車整備科
年次学期・曜日・時限	1年後期 ・ 火曜日 ・ ３・４時限あるいは５・６時限
時 限 数	２４時限（中間及び期末試験を除く）
担当教員名	清末　裕貴（副：池上　健史）
実務経験	(有) ・ 無 国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となるシャシを構成する各装置についての講義を実施する。
授業の目的	シャシを構成する各装置・部品等の保守・点検・整備について講義する。
テキスト	三級自動車シャシ　（日本自動車整備振興会連合会　発行）

授　業　計　画

授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト範囲
第１回	クラッチ	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.17~22 P.49~52
第２回	トランスミッション	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.28 P.32~33 P.52~53
第３回	プロペラシャフト、ユニバーサルジョイント、ドライブシャフト	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.42~44 P.54~56
第４回	ファイナルギヤとディファレンシャル	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.45~48 P.56~59
第５回	フロント側のアクスル及びサスペンション	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.61~62 P.77~79
第６回	アクスル及びサスペンション主にリア側とショックアブソーバなど	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.75P.62 P.79~82
	中間試験	第6回までの授業内容に関する筆記試験	
第７回	ステアリング装置の操作機構とギヤ機構	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P86 P.97~103
第８回	パワーステアリング機構	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.92～93 P.104~105
第９回	ホイール及びタイヤ	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.118~121

第 10 回	ホイールアライメント	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.128~131
第 11 回	ブレーキ装置	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.160~164
第 12 回	シャシ点検と整備のまとめ	各装置の点検・整備についてのまとめ 練習問題プリントを配布	P.221~234
	期末試験	第1回～第12回までの授業内容に関する筆記試験	
到達目標	点検整備の重要性を理解し、シャシの各部品装置の点検及び整備方法を習得する。		
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、中間試験並びに期末試験を合算して行う。		
定期試験受験資格	開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。		
成績評価基準	成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。 中間試験の点数　30% 期末試験の点数　40% 平常点　30% 上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。 60～69点＝可、70～79点＝良、80～89点＝優、90点以上＝秀 60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点＝可とする。		
成績評価できない場合の基準	全講義を終了時点の出席率が５０％を満たしていない場合、 又は、成績評価が６０点未満の場合。		